

前庭疾患



軽度の斜頸



重度の斜頸

前庭器官とは、体の運動感覚や位置感覚を中枢に伝える受容器官をいい、直進運動、回転運動、あるいは運動の速度などを感じる感覚器でもあるため、平衡感覚器ともよびます。この受容器は、内耳内に存在する骨迷路という場所に位置しています。原因不明で特発的に起こることもありますが、エンセファリトゾーンという寄生虫や *Pasteurella multocida* などの細菌感染が原因で内耳炎や中耳炎を引き起こします。そのため首が傾き(斜頸)、眼が左右にゆれたり(眼球振盪)することがあります。重症例では動こうとすると転んでしまう運動失調や起立不能、食欲不振などもみられます。

症状

神経症状を発症すると体をコントロールすることが出来ず壁にぶつかったり段差から落下したりします。斜頸や運動障害の症状のウサギを発見したら怪我をしないように段ボールやキャリーの中に隔離します。抗生剤や消炎剤、ビタミン剤で治療しますが、重症例では長期間の投薬と、強制給餌などの看護が必要となります。

学校でのケア

首が傾いているウサギがいたらすぐに獣医師の診察が必要です。原因菌の一つである *Pasteurella multocida* は健康に見える個体でも持っていることが多いため、ウサギを触った後は手洗いを心がけましょう。

学校での注意事項

後遺症として斜頸が残ることがあるが、首を傾けながらも食事や排泄をして普通の生活を送ることができます。頭や目を傷つけないように環境を整え隔離して飼育しましょう。

キーワード：斜頸 ふらつき 食欲不振